



第100号記念特集号

令和5年7月発行

放送大学  
鹿児島学習センター

〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号

☎ (099) 239 - 3811

FAX (099) 239 - 3841

E-mail kagoshima46@ouj.ac.jp



## 「かいこうず」第100号の 刊行にあたって



鹿児島県の県木：かいこうず



放送大学  
鹿児島学習センター所長  
高津 孝

本号で、放送大学鹿児島学習センター機関紙「かいこうず」は第100号となります。同時に鹿児島学習センターも開設以来、四半世紀、25年目となりました。この間、鹿児島学習センターの発展、充実に努力された歴代所長、事務長、職員の方々、また、客員教員、そして面接授業講師としてご協力いただいた県内諸大学、諸機関等の先生方、そしてなにより鹿児島学習センターに所属し真摯に勉学に励まれた学生の皆様に感謝を捧げたいと思います。

放送大学は、昭和58年（1983）4月に設置され、昭和60年（1985）から放送による授業が開始されました。鹿児島学習センターは、平成10年（1998）に設置され、同年10月から学生の受け入れが始まりました。機関紙「かいこうず」第1号の発刊もこの時です。センターは最初、旧鹿児島県庁舎東別館6階で開学し、平成13年（2001）3月に旧鹿児島県警本部庁舎に移転し、平成15年（2003）3月に現在のかごしま県民交流センター西棟4階に移転しました。さらに、同年5月には奄美大島名瀬市に鹿児島学習センター外視聴室が設置

され、平成21年（2009）4月には県立奄美図書館に移転しました。鹿児島学習センターの現状は、九州各県の学習センターに比べ、交通の便、施設の充実ともに優れた条件下にあります。これまでの鹿児島県側の関係者の方々の努力の賜物と考えております。

今年3月25日に東京のNHKホールで開催された令和4年度放送大学学位授与式に出席してまいりました。特に印象的であったのが、卒業生を代表して謝辞を述べられた大城敏雄さん（大阪学習センター）です。78歳のご高齢で、全盲という障害を抱えながら、卒業論文を書き上げて卒業された経緯を、点字原稿を手でたどりながら、謝辞として読み上げられ、実に感動的でした。放送大学の学生の皆さんはそれぞれ固有の物語を持っており、なぜ学ぶのかということに明確な回答を持っている。これこそが放送大学生の特徴ではないかと強く感じました。あらためて、放送大学が社会的意義の大きい教育システムであることを思い起こさせてくれる体験でした。



かごしま県民交流センター



鹿児島県立奄美図書館

# 機関誌「かいこうず」100号に寄せて

鹿児島学習センター第2代所長 西中川 駿

「かいこうず」第100号記念おめでとうございます。

初代所長島田先生が築かれた鹿児島学習センターの2代目所長として、私は「自宅がキャンパス、いつでも、どこでも、誰でも」をキャッチフレーズに、学生数2000名突破をめざして、職員と一緒に学生募集のために県下の市町村を駆け巡りました。また、在職5年間の主な行事として、県民交流センター4階への移転式典、名瀬市金久地区分館のセンター外視聴実施、移転1周年記念公開講演会、鹿児島大学との単位互換、「奄美市まなびフェスタ」での丹保学長の記念講演および懇談会などがあり、一方、学生間の交流と教職員との絆を求めて、公開講演会、意見交換会、納涼クルージング、学生研修旅行、忘年会、サークル活動など数々の楽しいイベントが思い出されます。創設から25周年、鹿児島学習センターが益々ご発展されますことをご祈念申し上げます。



鹿児島学習センター第3代所長 竹田 靖史

## 「学ぶ慣性力」

「かいこうず」私の鹿児島学習センターで最後となった春に50号（平成23年1月）が発行された。特集は生まれなかったが初のカラー印刷！奄美でも単位認定試験が受験できるとある。新しい県立奄美図書館へセンター外視聴室が移転、室長が着任、「奄美ランチ試験場」が誕生した。今は Web で自宅でも受験が可能とか！進むデジタル化で学生さんや職員との触れ合いが希薄になるのが気掛りである。放送大学初の海外面接授業「English in シアトル」の報告会も載っている。受講生は「何事も積極的にと心掛け、自信がついた」と、受講の機会を逸した学生さんからは「みんな笑顔で、若く見えた」と。この春、未曾有の東北大震災が発生し、恒例の卒業祝賀会もセンターのレセプションも中止された。12年を経た今春、シアトルのオーガナイザーで講師の宮下和子先生の公開特別講義が開かれた。そこには当時の受講生の顔、顔、顔・・・が！放送大生の「学ぶ慣性力」は「今も凄い！」と感じた。



鹿児島学習センター客員教授 森 孝晴

## 「継続は力なり」

「かいこうず」第100号の発行、おめでとうございます。私も数回寄稿させていただきましたが、鹿児島学習センターの学生さんに読んでいただける喜びを感じながら書かせてもらいました。私はいくつかの協会の機関誌に数えきれないくらいの巻頭言や寄稿文を書いています。それはやりがいもありますし、大きな達成感をもたらします。続けることは大きな自信を与えてくれますし、影響力も秘めています。

ものを読み何かを考えて書き続けることは、とても生産的な作業で、また楽しいことでもあります。AIの発展が目覚ましい昨今ですが、自律的に書くことを続けて行かなければ人間としての存在感が失われます。私にとって文学や歴史的なことを自分の思うように書くことができないなら、それは足枷をはめられたのと同じことです。

私はこれからも論文や研究ノート、エッセイや寄稿文などを書き続けます。皆さんも自ら学び、読み、書き続けてください。「かいこうず」が150号、200号と続くよう祈ります。



鹿児島学習センター客員教授 有倉 巳幸

放送大学鹿児島学習センターで、学生と教職員をつなぐ機関誌「かいこうず」が第100号を迎えた。毎回、巻頭には、各分野の専門家からなる客員教授の研究紹介や評論などが掲載され、私も客員教員をさせていただいてから折に触れ、読ませていただいている。私たちが見ている世界を様々な専門分野から紹介されているが、私と視点が共通する論考もあれば、自身の視点からの捉えでは気づかなかったなという論考もある。自身の関心を追究する際にその分野にある知見や方法を取り入れていくことは学びを深く掘り下げるために必要であるが、分野の外に目を向け、異分野の知と対話することは学びを拓く上で有益だと感じる。放送大学は、様々な専門のコンテンツやツールを提供しており、特定分野の課題を掘り下げるだけでなく、時に異分野に開き拓いていく絶好の場だと考える。これからも多くの人々が放送大学を通して自身の学びを展開してほしいと願う。



鹿児島学習センター名誉学生 齊藤 國久

機関誌「かいこうず」第100号の発刊を慶び、鹿児島学習センターの歴史に輝かしい1ページが開かれたことに深い感銘を覚えました。改めて心より敬意を申し上げます。

顧みると、かいこうず創刊の当時、私は熊本県に居住しており、入学手続きは熊本学習センターで行いました。この時期は、かいこうず発刊の平成10年10月と私の入学時と「時」を同じくするもので、感慨深いものを感じます。

さて、私は熊本県から鹿児島県への転勤を命ぜられこの地で定年退職し、以後は鹿児島学習センターに在籍し、同窓会活動にも全力を挙げ、令和4年秋、全科履修生全コースを踏破して「名誉学生」の称号を授与されました。これは志を同じくする先輩をはじめ、同僚たちの励ましと客員教員、事務室職員の方々の親身になっての指導・助言があったことで、今は深い感謝と微力ながらも何らかの形で報いたいと思っています。



鹿児島学習センター名誉学生 O・M

この度は、鹿児島学習センター機関誌「かいこうず」第100号記念発刊おめでとうございます。振り返れば、私は鹿児島学習センター第2回入学となる桜咲く春に入学して以降、薄緑色の「かいこうず」の発刊と共に学生の在籍期間を重ねてきました。

私にとって頼りになっていた「かいこうず」は、嬉しいことに卒業後の現在も届いています。

「かいこうず」は、面接授業の開講科目一覧、通信指導提出期限、単位認定試験までの流れや注意事項、公開講演会、客員教員の紹介、ミニゼミの案内等様々な内容が掲載されており、私にとって見過ごしやうっかり忘れ防止に一目で分かる貴重な情報源となる機関誌でした。

第100号に至るまで休刊なく、わかりやすく工夫・編集して発刊してくださる職員の方々に感謝しています。

今後も鹿児島学習センターの全国上位の学生数維持と更なるご発展、大学と学生が誌面を通して繋がる、活かされる機関誌の継続を心から祈念いたします。

# 鹿児島学習センターのあゆみを写真で紹介



1998年6月 放送大学看板上掲



1998年10月 第1回入学者の集い



2003年4月 かがしま県民交流センターへ  
移転披露式典



2008年11月 開設10周年記念公開講演会



2009年4月 県立奄美図書館に奄美再視聴室を移転



2018年11月開設20周年記念式典・公開講演会



## － 納涼イベント編 －



2000年 納涼船 in フェリー屋久島



2007年 ビヤガー電車



2018年 桜坂鹿児島天文館



2019年 ポルトカーサビアガーデン

## － 学生研修旅行編 －



2009年 於 霧島アートの森



2010年 於 川内戦国村



2012年 於 枚聞神社



2019年 於 JAXA 内之浦宇宙空間観測所

# 2023 年度第 1 学期単位認定試験について Web 受験方式

※「正多面体と素数（'21）」「日本美術史の近代とその外部（'18）」「量子化学（'19）」のみ郵送受験

## 1 試験日程

令和5年7月15日（土）9:00～7月25日（火）17:00



## 2 自宅等で受験される方

- ・試験期間中（7月15日（土）9:00～7月25日（火）17:00）の都合の良い日時に、システム WAKABA > Web 単位認定試験システムにアクセスし、試験問題閲覧・解答提出を行います。

※1科目50分の制限時間があります（一時停止不可、1回のみ受験可能）

## 3 学習センターで受験される方（申請提出済みの方）

- ・授業科目案内に記載の試験日・時限に来所し受験します。
- ・学生証・受験票は必ず持参してください!!
- ・学習センターのパソコンを用いて Web 単位認定試験システムにアクセスし試験問題閲覧・択一式の解答提出をご自身で行います。（記述式の解答は解答用紙で行います）



※1科目50分の制限時間があります（一時停止不可、1回のみ受験可能）

Web 単位認定試験システムに、ログインするためにはログイン IDとパスワードが必要です。

受験される方は、ログインできるか試験前までに必ず確認をしてください。システムにログインできない場合は、できるだけ早く鹿児島学習センターまでご連絡ください。

※**単位認定試験関連の郵送物は必ず開封して目を通しましょう。**

## 〔再試験について〕～試験に不合格だった・未受験だったときは・・

新規に科目登録した学期に単位修得できなかった場合、次の学期に学籍がある場合に限り（休学中の場合を除く）科目登録を行わなくても再試験を受験することができます（再試験に係る授業料などはかかりません）。今学期で在学期間が終了する方は、次の学期の入学出願を行い学籍を継続することで再試験が受験できます。

※オンライン授業科目は、通信指導および単位認定試験を行いませんので再試験はありません。（「教育課程の意義及び編成の方法（'15）」「幼児理解の理論及び方法（'15）」「小学校外国語教育教授基礎論（'17）」を除く。）単位を修得できなかった場合、再度科目登録が必要ですのでご注意ください。

## 次学期の手続きについて



今学期（9月末）で学籍がなくなる学生

次学期（10月以降）も学籍がある学生

### 継続入学の手続

システム WAKABA →教務情報→継続入学申請より手続されるか、本部から送付される「継続入学関連書類」により、再入学の手続を行ってください。

〈出願期間〉

第1回：6月10日（土）～8月31日（木）まで  
第2回：9月1日（金）～9月12日（火）まで

### 科目登録申請の手続

本部から送付される「科目登録申請要項」により、次学期の履修科目を申請してください。

〈システム WAKABA による申請期間〉

8月15日（火）9:00～8月31日（木）24:00

〈郵送による申請期間〉

8月15日（火）～8月30日（水）私書箱必着

※継続入学関連書類は集団入学または共済組合を利用して入学した方には送付されません。

※継続入学をされる方で、入学学期に面接授業を希望される方は、8月15日～8月31日の間にシステム WAKABA から手続を行ってください。その他の期間での手続、及び郵送から手続を行った場合は、面接授業登録はできませんので、ご注意ください。



## ライブ Web 授業について

Web 会議システム（Zoom）を利用した授業と、オンライン授業の利点を活かした新たな授業形態です。学習センターではなく、ご自宅などでパソコンなどを用いてリアルタイムで受講します。

2023年度第2学期の授業科目は、2023年8月初旬に Web サイトでのみ公開いたします。（面接授業時間割表冊子には掲載されません。）詳細は、以下をご確認ください。

〈放送大学 Web サイト / 選ばれる理由 /

いつでも、だれでも、自由な学び方を / ライブ Web 授業 >





## 2023 年度第 2 学期 面接授業開講科目一覧



【科目登録申請期間】 ・ ・ システム WAKABA による申請期間：8月15日（火）9:00～8月31日（木）24:00  
 ・ ・ 郵送（科目登録申請票）による申請期間：8月15日（火）～8月30日（水）私書箱必着  
 ★7月中旬に本部より「科目登録申請要項」が送付されますので、詳細をご確認ください。

科目区分	ナンバリング (レベル表示)	科目名	担当講師名	授業日	定員
導入科目： 社会と産業	220 (中級)	戦後日本政治入門	平井 一臣	10月14日(土) 10月15日(日)	40
専門科目： 心理と教育	320 (中級)	心理学実験2	田爪 宏二	10月14日(土) 10月15日(日)	30
専門科目： 生活と福祉	320 (中級)	認知症と高齢者のこころの病気	長友 医継	10月20日(金) 10月27日(金)	40
導入科目： 情報	220 (中級)	画像記号による計算機操作の基礎	内山 博之	10月21日(土) 10月22日(日)	40
専門科目： 心理と教育	320 (中級)	心理アセスメントの基礎	関山 徹	10月21日(土) 10月22日(日)	40
基盤科目： 外国語	110 (初級)	中国語で話してみよう	寺西 光輝	10月28日(土) 10月29日(日)	20
専門科目： 生活と福祉	320 (中級)	リスクコミュニケーション論	奈良 由美子	10月28日(土) 10月29日(日)	40
専門科目： 生活と福祉	320 (中級)	リスクコミュニケーション論（注1）	奈良 由美子	10月28日(土) 10月29日(日)	10
専門科目： 人間と文化	320 (中級)	宮沢賢治の童話を読む	村瀬 士朗	11月 4日(土) 11月 5日(日)	40
導入科目： 人間と文化	220 (中級)	近代天皇制から象徴天皇制へ	茶谷 誠一	11月 9日(木) 11月10日(金)	40
専門科目： 社会と産業	320 (中級)	鹿児島島の地域課題と政策2	西 啓一郎 桑代 毅彦 本田 豊洋 片野田 拓洋	11月11日(土) 11月12日(日)	40
専門科目： 人間と文化	320 (中級)	建築のカタチを考える	柴田 晃宏	11月18日(土) 11月19日(日)	40
専門科目： 自然と環境	320 (中級)	鹿児島島の自然環境と土砂災害	寺本 行芳	11月18日(土) 11月19日(日)	40
導入科目： 人間と文化	220 (中級)	唐詩へのいざない（注2）	高津 孝	11月25日(土) 11月26日(日)	15
導入科目： 社会と産業	220 (中級)	発酵食品のひみつ	高峯 和則	11月25日(土) 11月26日(日)	40
専門科目： 心理と教育	320 (中級)	心理学実験3	有倉 巳幸	11月25日(土) 11月26日(日)	30
導入科目： 生活と福祉	220 (中級)	精神的健康のセルフマネジメント	山下 亜矢子	12月2日(土) 12月3日(日)	30
基盤科目： 外国語	120 (中級)	観光とおもてなしのための英語	山崎 美智子	12月 9日(土) 12月10日(日)	20
導入科目： 社会と産業	220 (中級)	日本経済の概観－現状と課題－	石塚 孔信	12月 9日(土) 12月10日(日)	40
導入科目： 自然と環境	220 (中級)	水族館学入門（注3）	佐々木 章 検見崎 温久 久保 信隆	12月16日(土) 12月17日(日)	16

【注1】 鹿児島学習センター（鹿児島市）で行う授業を Web 会議システムを利用し、県立奄美図書館（奄美市）でも開講します。

【注2】 授業の実施会場は、県立奄美図書館（奄美市）です。

【注3】 いおワールドかごしま水族館で、体験型の授業を行います。



## 2 学期 ミニゼミの案内



特定のテーマについて少数の学生が客員教員を囲み勉強する「ミニゼミ」を実施します。令和5年度第2学期は以下の客員教員がそれぞれの相談日に行います。正式な単位にはなりません。また、受講料は無料です。**定員は、各テーマ7名まで**とします。テーマ名、担当教員名、概要は下記のとおりです。いずれも**90分間ずつ計6回**が基本ですが、全回出席できることを受講の条件としておりません。ミニゼミの受講を機に客員教員とだけでなく学生同士の距離も縮まり、学生生活が楽しめます。なお、6回終了後も希望者に対しミニゼミを継続実施する場合があります。

◎**申し込み期間：10月1日（日）～各ゼミの1回目の実施日の前日まで**（複数申込可）

### (1) 薩摩藩英国留學生長沢鼎の新情報 森 孝晴 先生

幕末の薩摩藩英国留學生の最年少者長沢鼎の自家磯長家は、天文館ともつながる学者の家系です。伊地知家や赤星家との関係も深いものがありました。また、長沢が日本ワインの始まりにも関係していることがわかりました。久留米出身のポテト王牛島謹爾やカリフォルニア作家ジャック・ロンドンとの交友についてもお話ししたいと思います。

### (2) 動作・行動の環境適応と運動学習 牧迫 飛雄馬 先生

私たちの動作や行動は、無意識のうちにさまざまな要因から影響を受けています。運動は知らず知らずに学習して上手く動作ができるようになったり、逆に意図しない運動や行動が生じたりします。ちょっとした実験や体験を通して、普段の何気ない動作や行動を科学的に考えてみましょう。

### (3) 心理学「ミニ」勉強会 神蘭 紀幸 先生

これまで心理学を学びながら、自身が特に興味を感じたり、関心を持った領域やトピックがいくつかあったと思います。これから1つを取り上げて、「調べ学習」形式で簡単にまとめ、輪番で紹介してもらいます。その内容を、皆で議論し、考えていく中で、心理学的な思考法や素養を深めていく機会にしたいと思います。受講生の事情等によっては、指定したテキスト（1,000円程度）を輪読していく形式に切り替える場合もあります。

### (4) 野菜、果樹、草花栽培にトライ!!! 遠城 道雄 先生

庭や鉢、プランターから畑まで、簡単にできる野菜、果樹、草花などの栽培について、科学的根拠も含めてご説明します。植物の栽培は、ストレスの解消にもなります。少しでも、実際に冬野菜（花）のポット栽培にもトライして、ぜひ、植物に親しんでいただきたいと思います。

### ◎各担当客員教員の実施日程

曜日	時間	客員教員	実施日（※先生の都合により変更になる場合があります）
火	10:30～12:00	森 孝晴	10/17（火）、24（火）、31（火）、11/7（火）、14（火）、21（火）
金	14:00～15:30	牧迫 飛雄馬	10/13（金）、20（金）、11/10（金）、17（金）、24（金）、12/8（金）
土	10:30～12:00	神蘭 紀幸	10/14（土）、11/4（土）、11（土）、25（土）、12/2（土）、16（土）
日	14:00～15:30	遠城 道雄	10/22（日）、11/5（日）、12（日）、19（日）、26（日）、12/3（日）



## 2024年度履修者用『卒業研究履修の手引』配布中

「卒業研究」は、全科履修生の通年選択科目であり、卒業に必須ではありませんが、教員から直接指導を受けることのできる唯一の科目です。これまでの学習の総仕上げとしてぜひ挑戦されてみませんか。

卒業研究の履修をご検討されている方は履修申請条件等ご確認の上、早めに鹿児島学習センター高津所長へご相談ください。

郵送申請期間：令和5年8月10日（木）～17日（木）本部必着  
インターネット申請期間：令和5年8月10日（木）9:00～17日（木）17:00



## 公開講演会のお知らせ

聴講無料

日時	場所	テーマ・講師
7月30日（日） 13:30～15:00	鹿児島学習センター 講義室	テーマ：アジア・オセアニアの唐辛子 —伝播や利用に着目して— 講師：山本 宗立（鹿児島大学准教授）
8月27日（日） 13:30～16:30	鹿屋中央公民館 （集会室）	第1部：なぜ、身体活動が認知症の予防に良いのか？ 講師：牧迫 飛雄馬（鹿児島大学教授） ----- 第2部：①いつでも誰にでも開かれた放送大学 ②博物学者・島津重豪 講師：高津 孝（放送大学鹿児島学習センター所長）
9月17日（日） 13:30～15:00	鹿児島学習センター 講義室	テーマ：未定 講師：松尾 浩司（環境省霧島錦江湾国立公園管理事務所長（国立公園調整官））
10月8日（日） 13:30～15:00	鹿児島学習センター 講義室	テーマ：倭銀の登場 —16世紀東アジアの貨幣と交易— 講師：大田 由紀夫（鹿児島大学教授）

※詳しくは、鹿児島学習センターウェブサイトまたはチラシをご覧ください。

※どなたでも参加できます。ご家族、お友達の方などお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。



## 教養セミナーの案内



客員教員の先生方から、それぞれの専門分野における興味ある話題についてお話しいたします。会場は鹿児島学習センターの講義室で、時間は90分程度です。ミニゼミと違って人数制限なく、鹿児島学習センターの学生であれば誰でも気軽に参加できます。資料等の準備のために、事前に事務室にお申込みください。なお、客員教員の都合により、日程が変更になる場合があります。

回数	日時	内容	教員
第2回セミナー	9月10日（日）10:30～	心理学の話題	有倉 巳幸
第3回セミナー	12月24日（日）14:00～	日本近現代史の話題	茶谷 誠一
第4回セミナー	2月18日（日）14:00～	社会心理学の話題	神園 紀幸



## イベントのお知らせ

学生や教職員との交流を深めませんか？ぜひ、ご参加ください！！

### 学生・教職員合同暑気払い

日時：令和5年8月6日（日）18:30～  
定員：30名  
場所：ビストロ・ドゥ・レヴ  
参加費：4,500円

### 学生研修旅行

期日：令和5年9月3日（日）  
定員：40名  
場所：出水方面（出水麓歴史館等）

※詳しくは、7月中旬に学習センターウェブサイトや学習センター内に掲示します。



## 図書・視聴学習室からのお知らせ



### ★過去1年分の試験問題・解答等が閲覧できます。

※現在閲覧できる試験問題・解答等は、システム WAKABA 内で公開しているものと同じ2022年度1学期、2学期分のみです。試験前は、閲覧が込み合う場合がありますので、早めの閲覧をお勧めします。

※デジカメ・スマホ等で撮影は可能ですが、学習センターのプリンターで印刷はできません。

※ USB メモリ等に保存して、コンビニエンスストア等にて印刷が可能です。



### ★放送教材（DVD・CD）は郵送にて大学本部からご自宅に取り寄せることができます。

学習センターでは室外貸出しは行っていません。詳しくは『学生生活の葉』をご覧ください。

### ★室内視聴用タブレットは、ご自分のログイン ID（学生番号）とパスワードを入力するだけで、すべての放送授業が視聴できます。ぜひご利用ください。

### ★雑誌のバックナンバー無料配布について！

鹿児島学習センターで配架していた雑誌のバックナンバー2021年10月～2022年3月分を、無料配布します。

対象雑誌：ニュートン、栄養と料理、文藝春秋、こころの科学など

日時：7月26日（水）9:30～

場所：鹿児島学習センター 学生控室

なくなり次第終了とします。一人でたくさんの持ち帰りはご遠慮ください。

### ★学生図書リクエストの受付が始まりました。

学生図書リクエストとは、放送大学に所蔵してないが学習に不可欠で、配架を希望する図書館資料のリクエストを受付し、大学本部で選定を行い選定後、購入配架する制度です。

お申込の詳細については、放送大学ウェブサイト→システム WAKABA →放送大学附属図書館「お知らせ」の「2023年度学生図書リクエスト受付開始」をご確認ください。

## 鹿児島大学で授業を受講してみませんか？

放送大学では、鹿児島大学と単位互換協定を結んでおります。令和5年度第2学期においても「鹿児島大学特別聴講学生」として鹿児島大学で学ぶ学生（全科履修生）を募集します。

出願資格：① 全科履修生 ② 本学に在学年数が1年以上の者

③ 放送授業科目において30単位以上を修得した者

※出願締切は、8月3日（木）です。詳しくは、鹿児島学習センターまでお問い合わせください。

## 令和5年度10月入学生募集中!

- ◆教養学部◆ 全科履修生・選科履修生・科目履修生
- ◆大学院◆ 修士選科生・修士科目生・修士全科生※・博士全科生※

[出願期間] 第1回 8/31 (木) まで  
第2回 9/12 (火) まで

オープンキャンパス・個別入学相談会開催中!  
閉所日等を除いて毎日開催しています。



※令和6年度 大学院修士全科生・博士全科生の出願期間は、8/15 (火)～8/25 (金) [消印有効]

## 今後のスケジュール

7 July						
日	月	火	水	木	金	土
						①
②	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

### 【7月の予定】

15日～25日 Web 単位認定試験実施期間  
30日 公開講演会



### \*面接授業\*

1日 (土)・2日 (日) 「心理学実験1」  
「熱帯・亜熱帯の農業と作物」

8 August						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

### 【8月の予定】

6日 納涼イベント  
10日 卒業研究履修申請受付 (8/17まで)  
11日 閉所日 (山の日)  
13日 臨時閉所日  
15日 臨時閉所日  
15日 令和6年度大学院修士全科生出願受付 (8/25まで)  
令和6年度大学院博士全科生出願受付 (8/25まで)  
15日 第2学期科目登録受付 (郵送8/30、Web 8/31まで)  
27日 公開講演会



9 September						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

### 【9月の予定】

3日 学生研修旅行  
17日 公開講演会  
19日 閉所日 (県民交流センター休館日)  
23日 閉所日 (秋分の日)  
30日 令和5年度第1学期卒業証書・学位記授与式  
大学院修士全科生・博士全科生入学試験



閉所日 単位認定試験

面接授業



かいこうず

鹿児島県の県木で、強烈な赤い花卉と緑の葉が鮮やかなコントラストをみせる。鹿児島学習センターの学生が、深紅の情熱で勉学にチャレンジする様を想い、機関誌のタイトルとしています。